

平成27年産 大豆エンレイ栽培こよみ

アルプス農業協同組合
アルプス農協管内農業技術者協議会

【目標】 単収200kg/10a 1~3等比率向上 経営所得安定対策で所得アップ!!

| 月別 | 4月 | | 5月 | | 6月 | | 7月 | | 8月 | | 9月 | | 10月 | | 11月 |
|----|----|--|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|-----|---|-----|
| 旬別 | | | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | |

主な作業

4月: 基幹排水、土壌改良

5月: 播種、出芽・苗立

6月: 生育期

7月: 開花始め、着実始め

8月: 葉伸長期

9月: 子実肥大期

10月: 黄葉期、落葉・成熟期

11月: 次年度作付ほ場の準備

栽培のポイント

- 排水対策を徹底
- 石灰質資材・堆肥等の積極的施用
- 栽培本数 14,000 ~ 16,000 本/10a の確保
- 晴れ間を逃さず2回培土の実施
- 病害虫防除の徹底
- 開花後~9月上旬の水分不足時は畦間かん水
- 子実水分 22%を切ったら刈取り開始

1回目培土 播種20~25日後 (本葉2~3葉期)

2回目培土 播種30~35日後 (本葉4~5葉期)

基本防除 (1回目) ウコンノメイガ (防除随時)

基本防除 (2回目) ハスモンヨトウ

雑草の抜き取り タテ類等大きな雑草や青立株を除去

畦間かん水 開花期以降晴天が続いたら実施

葉巻とウコンノメイガ幼虫、アオクサカメムシ、紫斑病

1 早期排水対策

①水口はしっかり止める ②額縁排水溝は早めに設置する ③排水溝は確実に連結

④サブソイラなどによる心土破碎 ⑤排水直後に基幹排水溝を設置

⑥排水溝は深く掘り下げる

排水性を改善し、砕土率を向上!

- 発芽・苗立ちが良くなる
- 根量が増え、根粒菌も増える
- 除草剤の効果が十分に得られる

サブソイラによる心土破碎、深く掘り下げた額縁排水溝

5 雑草防除(除草剤散布)

帰化雑草のほ場への侵入を防止
ほ場周辺での早期発見に努め、開花・結実前に除去しましょう。

| 散布時期 | 対象雑草 | 薬剤名 | 10aあたり散布量 |
|--|----------------------------------|---------------|----------------------------|
| 播種後出芽前 | 一年生雑草 | ラクサー乳剤 | 400~600ml / (水100ℓで希釈) |
| 播種後発芽前 | 一年生雑草 {ツクサ、カヤツリグサ、キクアブラナ科を除く} | トレファノサイド乳剤 | 200~300ml / (水100ℓで希釈) |
| | | トレファノサイド粒剤2.5 | 4~6kg |
| 雑草生育期 (イネ科雑草の3~10葉期) (収穫30日前まで) | 一年生雑草 | サターンバアロ粒剤 | 4~6kg |
| | | サターンバアロ乳剤 | 600~800ml / (水100ℓで希釈) |
| 雑草生育期 (イネ科雑草の3~10葉期) (収穫30日前まで) | 一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く) | ポルトフロアブル | 200~300ml / (水100ℓで希釈) |
| 大豆2葉期~開花前 (収穫45日前まで) | 一年生雑草 (イネ科を除く) | 大豆バサグラン液剤 | 100~150ml / (水100ℓで希釈) |
| 大豆5葉期~雑草生育期 (結実・株間処理) (収穫28日前まで) | 一年生雑草 | バスタ液剤 | 300~500ml / (水100~150ℓで希釈) |
| 雑草生育期 (結実処理) (収穫28日前まで) | 一年生雑草 | ザクサ液剤 | 300~500ml / (水100~150ℓで希釈) |

マルハルコウ、イヌホオズキ、イヌビユ、ホソアオゲイトウ

6 的確な培土

晴れ間を逃さず確実に2回の培土を行い、根域を拡大し、湿害を回避する。

培土の効果

- ①排水の促進と湿害の防止
- ②根量と根粒菌の増加
- ③雑草の抑制 ④倒伏の防止

2回目: 播種30~35日後(本葉4~5葉期) 初生葉が隠れる程度

1回目: 播種20~25日後(本葉2~3葉期) 子葉が隠れる程度

7 畦間かん水

- 開花期から9月上旬は、土壌の乾き具合に応じて適時かん水する。
- 3日間以上晴天が続き、土が乾いたらかん水する。
- ほ場全体に水が行き届いたら水口を止め、速やかに排水する。

開花時期、畦間かん水

2 土づくりと施肥

- 大豆栽培に適するpH6.0~6.5を目標に必ず石灰質資材を施用する。
- 地力の低下を補うため、発酵鶏ふんを施用する。

10a当たり施肥量

| 資材名等 | 側条施肥 | 全層施肥 |
|------------------------|---------------|------|
| 粒状貝化石 | 100kg | |
| 発酵鶏ふん | 100~200kg | |
| BB088 (N:P:K=10:18:18) | 普通田 20kg | 30kg |
| | 砂壤土、低地力田 30kg | 40kg |
| | 麦跡 上記+硫安10kg | |

4 適正な播種作業で、苗立本数を確保

一連の作業はほ場が乾いた状態で、好天日に一気にやる。

※作業手順(施肥同時播種の場合)

耕起 ▶ 砕土・整地 ▶ 播種 ▶ 作溝

◎適正栽植本数の確保
目皿とスプロケットの組合せを確認し、適正播種量を入れる

播種直後に基幹排水溝と額縁排水溝をつなぎ、排水を促進!

【播種量の目安】 条間80cm エンレイ大粒種子 (百粒重35.3gの場合)

| 目皿 | 播種時期 | 播種量目安 (kg/10a) | 目標栽植本数 (本/10a) | スプロケット 目皿側 | 車輪側 |
|------|-----------|----------------|----------------|---------------|-----|
| B-2 | 5月下旬~6月上旬 | 5.5~6.3 | 14,000~16,000 | 10 | 14 |
| | 6月中旬(麦跡等) | 6.3~7.1 | 18,000 | 9 | 14 |
| B-22 | 6月上旬~6月中旬 | 7.1~ | 18,000~ | 13 | 11 |

※B-22使用の場合は、ほ場条件により播種量が増加します。

9 収穫作業

- ◎青立ち株や大きな雑草は事前に抜き取っておく。
- ◎収穫作業は適期に行う。
- ◎露がなくなってから刈取る。(午前10時~午後4時まで)
- ◎刈取り高さは地際から10cm以上とし、土を掻き込まない。
- ◎汚損は絶対に出さない。(土や草汁が主な原因!)

灰色: 緑 → 黄 → 褐色

株の90%以上が褐色になれば収穫可能

3 種子消毒 (病害虫防除の徹底)

| 対象病害虫 | 使用薬剤 | 処理方法 |
|--|-----------|----------------------------------|
| フタスジヒメハムシ アブラムシ類 タネバエ ネキリムシ類 茎疫病菌 黒根腐病 紫斑病 | クルーザーMAXX | 塗沫処理 乾燥種子 1kg当たり 原液 8mℓ |

フタスジヒメハムシ、茎疫病、黒根腐病

8 病害虫防除

農薬の使用基準を守りましょう。

| 防除時期 | 対象病害虫 | 薬剤名 | 10a当たり散布量 |
|--------------|-----------|------------------|--|
| 基本防除 粉剤体系 | 8月上旬 | 紫斑病・カメムシ類・マメシジメ類 | スミチオンベルコート粉剤DL 3kg/10a |
| | 8月下旬 | 紫斑病・カメムシ類・アブラムシ類 | マネージトレポン粉剤DL 4kg/10a |
| 基本防除 液剤体系 | 8月上旬 | 紫斑病・カメムシ類・マメシジメ類 | マネージDF 3000倍 150ℓ ダントツフロアブル 2500倍 150ℓ |
| | 8月下旬 | 紫斑病・カメムシ類 | アミスタートレポンSE 1000倍 150ℓ |
| 随時防除 | 7月下旬~8月上旬 | ウコンノメイガ | サイアノックス粉剤 4kg/10a プレバシオンフロアブル5 4000倍 150ℓ |
| | 8月下旬~9月中旬 | ハスモンヨトウ | トレポン粉剤DL 4kg/10a トレポン乳剤 1000倍 150ℓ |

10 次年度大豆作付ほ場の準備

- ・額縁排水溝の設置や心土破碎を行う。
- ・緑肥作物の作付により地力増進を図る。
- ・連作を避け、団地化を進める。

根雪前のヘアリーベッチ

大豆の乾燥・調製施設を利用しましょう。 立山大豆共同乾燥施設 463-6048 滑川大豆共同乾燥施設 471-2403

※ 乾燥施設を利用される場合は、計画的な受入れのため、事前にお問合わせください。

※ 安全安心な大豆を生産・販売するために、『栽培記録簿』は全て記入し、各営農センターへ提出して下さい。